

環境報告書 2023

《第2点眼製剤棟屋上から撮影した工場グラウンド》



わかもと製薬株式会社

相模大井工場

目次

会社概要	2
1 ごあいさつ	3
2 環境方針	4
3 環境管理体制	5
4 専門部会の活動	5
5 環境負荷の全体像	6
6 環境への取り組みと実績	7
(1) 温室効果ガスの排出量の推移	8
(2) 大気汚染物質の推移	8
(3) エネルギー使用量の推移	9-10
(4) 用水使用量・公共下水道排水の推移	11
(5) 廃棄物発生量の推移	11
(6) 化学物質の管理	12
(7) PCB廃棄物の保管状況	13
7 環境会計	13
8 緊急事態の対応	14-15
9 社会貢献活動	16-17
10 終わりに	17

会社及び工場概要

- ・ 設立 1929年4月
- ・ 資本金 33億95百万円
- ・ 本社 東京都中央区日本橋本町
2-2-2
- ・ 事業内容 医療用医薬品・一般用医薬品 製造販売
- ・ 相模大井工場 神奈川県足柄上郡大井町
金手378
(敷地 67千㎡、建物延面積 23千㎡)
- ・ 工場及び研究所人員 187名
(2023年9月1日現在 協力会社を含む)
- ・ 常駐する協力会社
特別警備保障(警備業務)
(株)ジャパン・リーフ (マイクバス運転業務)
(株)東海ビルメンテナンス (清掃業務)
派遣会社6社
- エネルギー使用量
 - ・ 電力 7,756千KWh
 - ・ 都市ガス 2,332Km³
 - ・ ガソリン (社用車・マイクバス)
2,195L
 - ・ LPG 68m³
 - ・ 井水 518m³

環境への取り組み

新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが 5 類感染症となり、就業や日常生活の行動制限は無くなりました。またインバウンドの影響により人流は増加し経済・社会活動が活発化し、新型コロナウイルス感染拡大前の日常を取り戻しつつあります。

一方で、ロシア・ウクライナ情勢は 2022 年 2 月 24 日から既に 1 年が過ぎましたが、終わりが見えない状況であり、それによりモノ不足による物流の混乱やエネルギー価格の高騰等、未だ先行きは不透明であります。

気候に関していえば、今年の夏は異例の暑さでありました。神奈川県西部でも 7 月から 9 月までの 3 か月で猛暑日 18 日を記録しています。この異常気象による経済活動への悪影響を少なくしていくために、地球環境保護を目的とした継続的な取り組みや改善活動が重要となってきます。

相模大井工場では、医薬品・医薬部外品等の供給を通じて環境への負荷低減を目指し継続的な ISO14001 の認証、そのための環境管理体制をより一層の強化を図っていきたいと思っております。

設備の省エネルギー化や製造工程の効率化は継続的な課題となっています。当工場では本年度、ガスボイラの更新を実施致しました。その結果ボイラ効率が上昇し、新再生方式により省エネ効果が実現できました。さらに安定燃焼により高効率でクリーン排ガスを一定に保っていて、環境への取り組みも同時に行っています。

また、事業活動を進めていくうえで製造用水を有効に活用しながら環境負荷を低減していく事も重要であることから、排水量を管理していきます。特定化学物質に関しては、取扱の有無や取扱量等の管理を確実に実施していきます。製造工程で排出される廃棄物に関しては、再利用できるように分別し、分別後は外部業者と連携し排出しています。さらに、地域社会とのコミュニケーションも増え、ゴミ拾い等の地域貢献も再開しております。

今後も皆様の健康に貢献し、また環境に配慮した生産活動を推進していきますので、皆様のより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2023 年 10 月

わかもと製薬株式会社 相模大井工場

執行役員 生産本部長

相模大井工場長 谷口 誠

環境方針

基本理念

わかもと製薬株式会社相模大井工場は、「医薬品、医薬部外品、診断薬や医薬品原料および食品用乳酸菌」の製造を通じて、価値のある製品を提供し社会貢献していくとともに、次世代に住みよい豊かな地球を引き継ぐために、地球環境保全活動を積極的に推進する。

基本方針

1. 事業活動が環境に与える影響を明確に捉え、技術的・経済的に可能な範囲で汚染予防に努める。
2. 環境関連の法律、規制や協定およびその他の要求事項を遵守する。
3. 省資源、省エネルギー、有害物質の使用低減、廃棄物の削減および再資源化を推進し環境負荷低減に努める。
4. 農業用地に隣接した立地条件を考慮し排水の管理を徹底するとともに、地域社会とのコミュニケーションを深めより一層の調和に努める。
5. 定期的に環境マネジメントシステムの監査を実施し、システムの見直しを通じて継続的な改善・向上を図る。

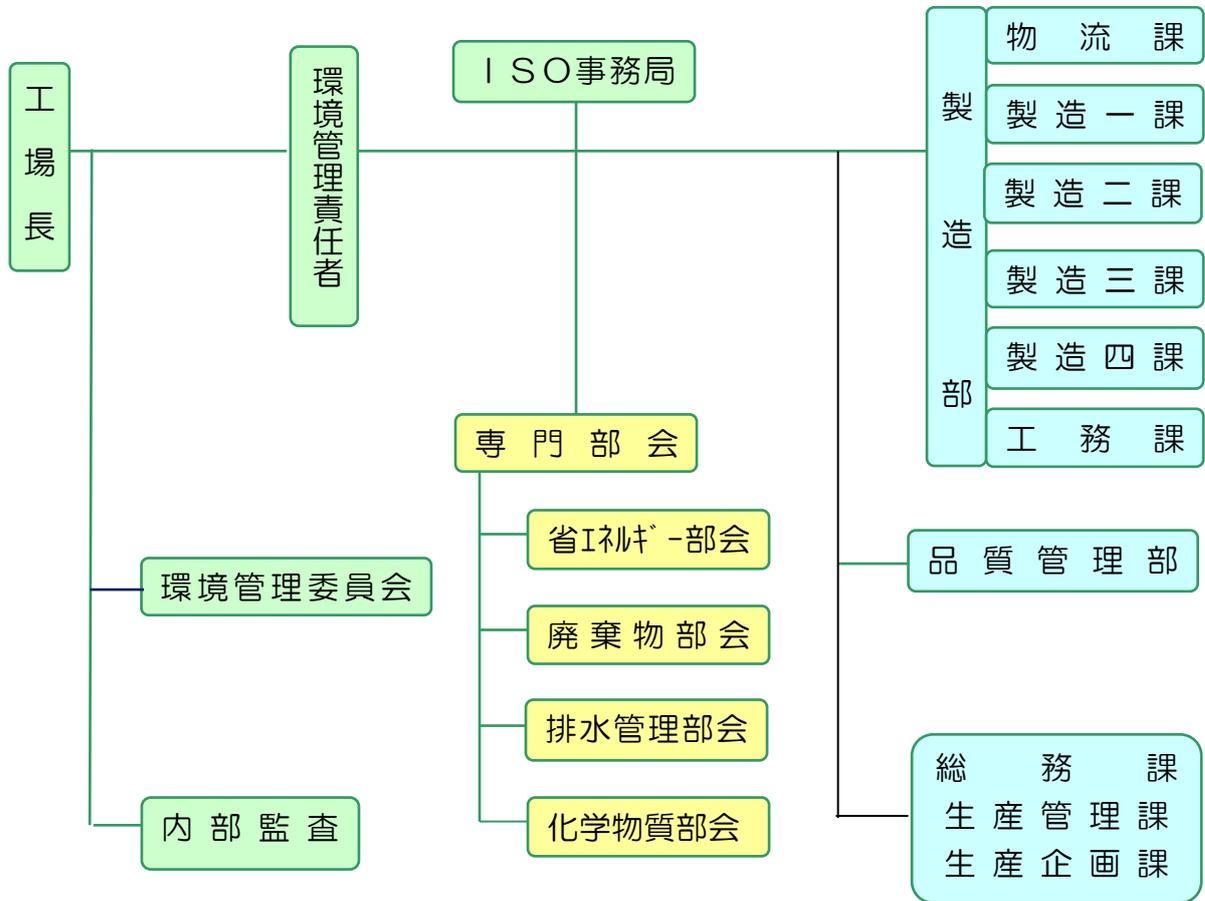
環境保全活動を実施、維持して、内容を周知するとともに、外部の要求に応じ公表する。

2021年10月1日

わかもと製薬株式会社 相模大井工場
執行役員 相模大井工場長 谷口 誠

3 環境管理体制

わかもと製薬株式会社相模大井工場の環境管理は、以下のような組織で運営しています。



4 専門部会の活動

省エネルギー部会

省エネルギー、CO₂排出量の削減活動の推進・啓発を目標に、省エネタイプの機器等の導入、冷房・暖房の適正温度の順守活動、各部門のエネルギー使用量をフィードバックすることにより、エネルギー使用量の削減に取り組んでいます。

廃棄物部会

廃棄物排出量の減量化計画立案、推進、リサイクルの推進・啓発活動を行い、リサイクル率の向上及び廃棄物排出量の削減に取り組んでいます。

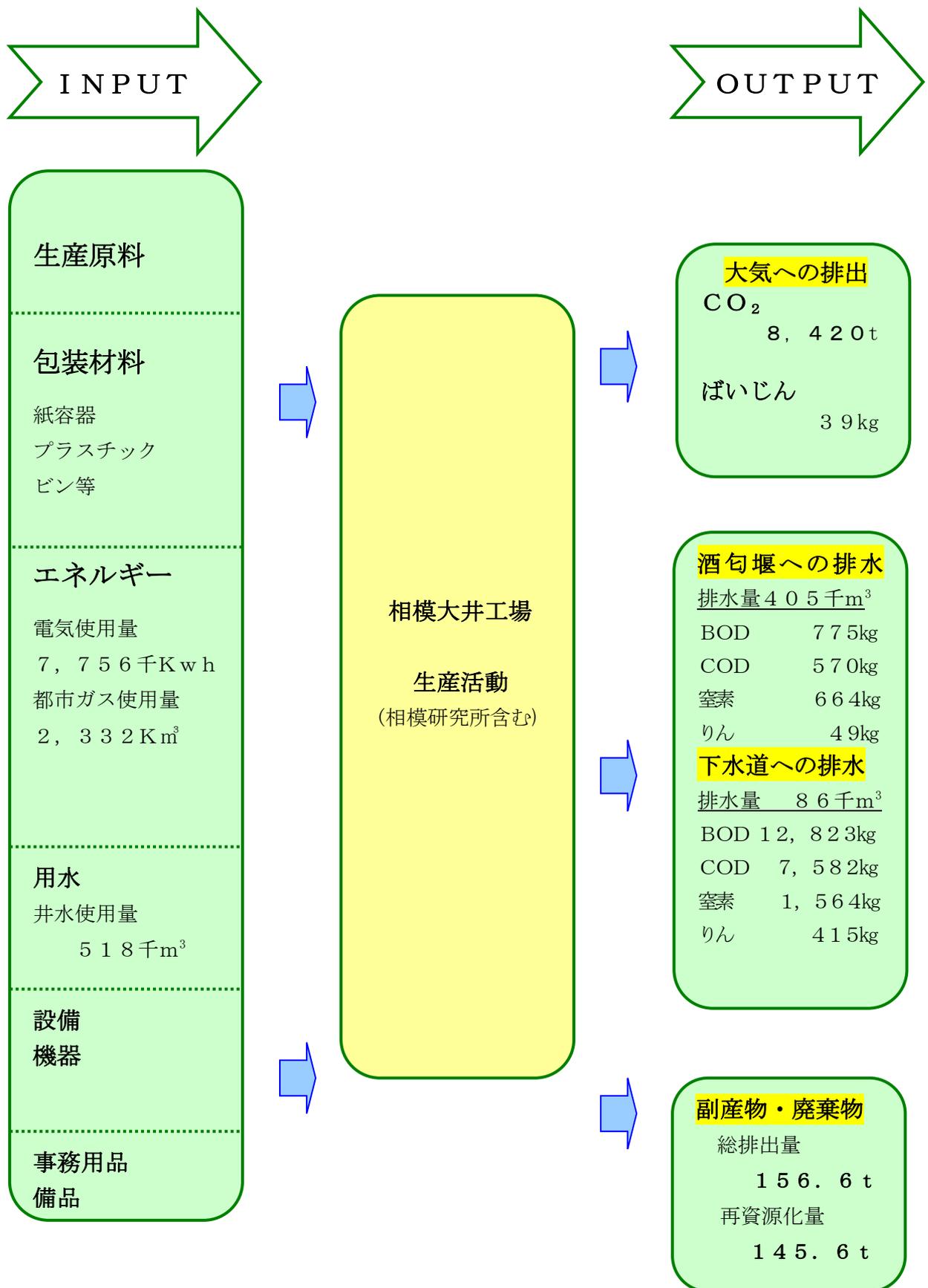
排水管理部会

排水管理を推進・啓発し、一般排水、公共下水道排水への未処理排水等を流出させないように取り組んでいます。

化学物質部会

化学物質の管理を推進、啓発活動を行い、取扱量、排出量の把握と削減に取り組んでいます。

5 環境負荷の全体像（2022年度 年間使用、排出量）



6 環境への取り組みと実績

環境目的・目標マネジメントプログラム2022に定めた実施項目に従い、環境保全活動を推進しました。主な活動実績は下記の通りです。2022年度は、新型コロナウイルスの影響が薄れてきて、生産量が少しずつ増加してきました。そのことで、エネルギーと廃棄物に関しては増加傾向となりました。

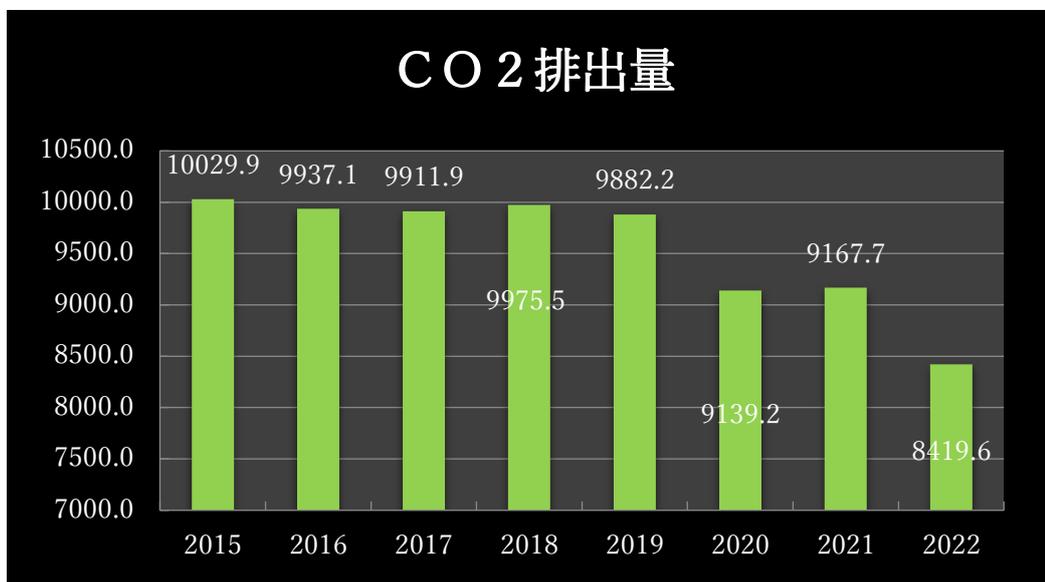
2022年度 活動結果

目的	目標	結果	備考
温室効果ガスの削減	<ul style="list-style-type: none"> 電力使用量の削減 製造部門(2021年度原単位以下) 非製造部門(2021年度以下) 都市ガス使用量の削減 製造部門(2021年度原単位以下) 非製造部門(2021年度以下) 社有車等燃料使用量の削減 ガソリン(34.6L/月以下) (社用車・軽トラ・軽バン) ガソリン(134.5L/月以下) (マイクロバス) 	<ul style="list-style-type: none"> 達成率 97.9% 達成率 102.0% 達成率 107.7% 達成率 105.1% 達成率 86.7% 達成率 97.0% 	<ul style="list-style-type: none"> 詳細は P8 を参照
廃棄物の減量化	<ul style="list-style-type: none"> 資源化率の向上 (90%以上) 排出量の削減 (2021年度以下) 	<ul style="list-style-type: none"> 達成率 103.3% 達成率 83.5% 	<ul style="list-style-type: none"> 詳細は P11-12 を参照
資源の有効利用	<ul style="list-style-type: none"> コピー紙使用量の削減 (2021年度以下) 副産物の有効利用 	<ul style="list-style-type: none"> 達成率 97.7% 肥料として農家等に譲渡 	
環境管理の改善	<ul style="list-style-type: none"> PCB コンデンサー等の委託処分 作業効率の向上 	<ul style="list-style-type: none"> すべて処理済み。 作業等の改善提案として231件提出された。 	<ul style="list-style-type: none"> 詳細は P12 を参照
法順守体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> PRTR 法対応の推進 緑地の維持管理 	<ul style="list-style-type: none"> 特定有害物質の県への届出。 定期的に緑地の除草及び樹木の剪定を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 詳細は P12 を参照
地域社会との共生	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会で開催する美化活動等への参加 地域行事への協力 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響で、各種参加型イベントが中止となった。 	<ul style="list-style-type: none"> P16~P17 を参照

(1) 温室効果ガス排出量の推移

2022年度の電力・都市ガス（CGSを含む）からのCO₂排出量8,419.6tでした。2021年度（9167.7t）より748.1t温室効果ガスを削減しました。

温室効果ガス（CO₂）排出量 単位：t （過去8年間の推移）



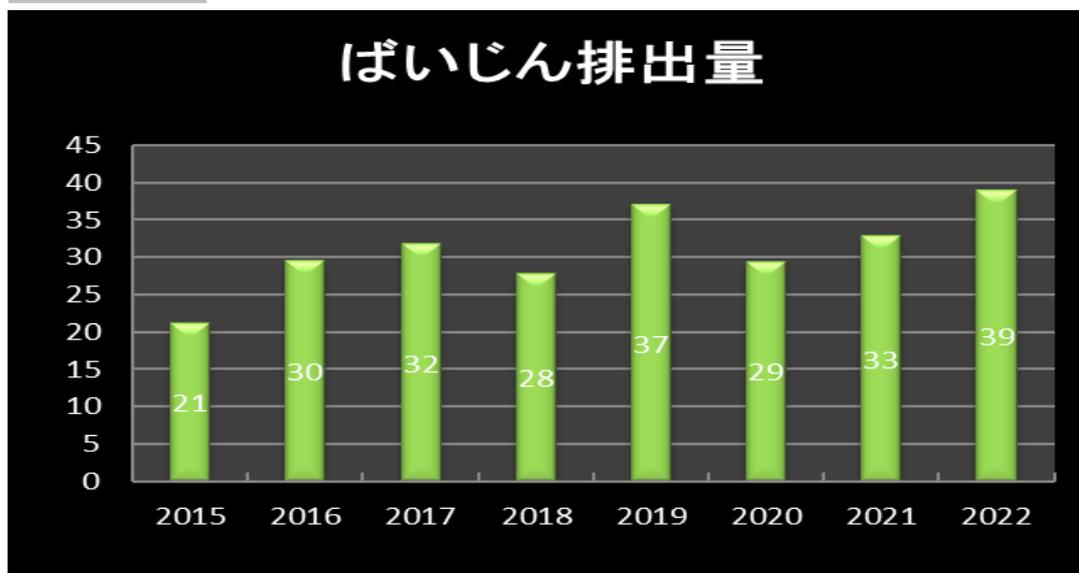
注) 2022年度は東京ガスのCO₂排出原単位は炭素クレジットを反映した値0.376 (Kg-CO₂/Kwh)を使用しました。

(2) 大気汚染物質の推移

1) ばいじん排出量の推移

2022年度の煤塵排出量は39Kgでした。2021年度（33Kg）と比べて6Kg増加しました。煤塵排出量は、ボイラ6台で合計が17Kg、CGS1台で22Kgで合計が39Kgとなりました。

ばいじん排出量 単位：Kg （過去8年間の推移）



注) ばいじん量については、実測した2回の平均を使用しています。

(3) エネルギー使用量の推移

1) 電力使用量の推移

2022年度の電気使用量は、7,756千Kwhでした。2021年度(7,798千Kwh)比較すると実績で42Kwh電力買取量が減少できました。

また、今年度より電気供給会社を東京ガスへ変更しています。

電力使用量 単位：千Kwh (過去8年間分の推移)

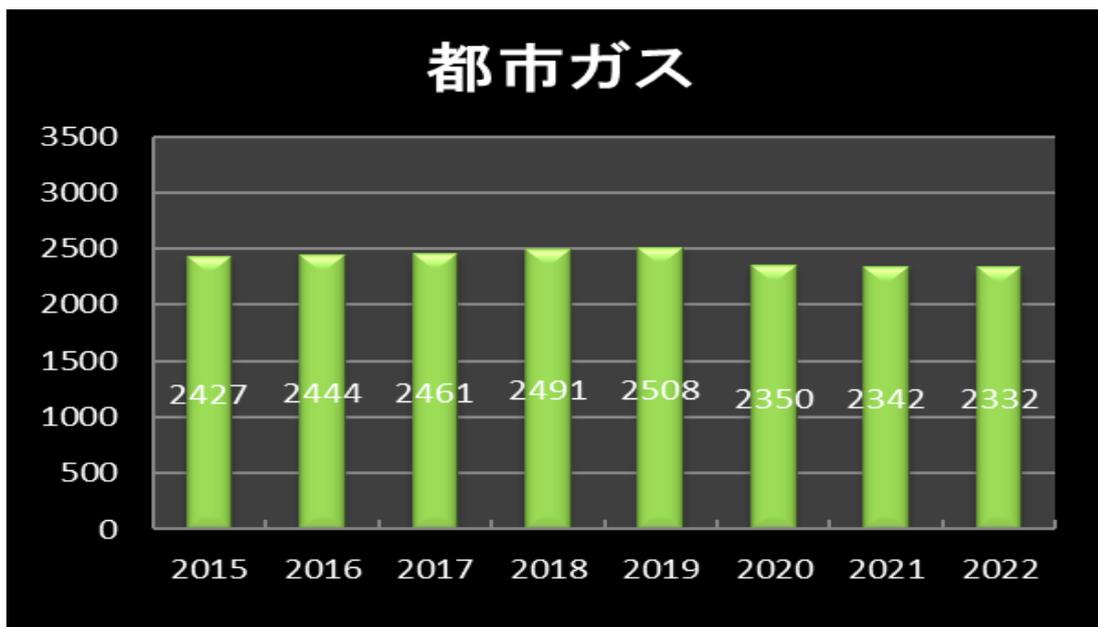


2) 都市ガス使用量の推移

2022年度の都市ガス使用量は2,332Km³でした。2021年度(2,342Km³)に比較して10Km³減少しました。

重油・都市ガス使用

単位：ガス Km³ (過去8年間分の推移)

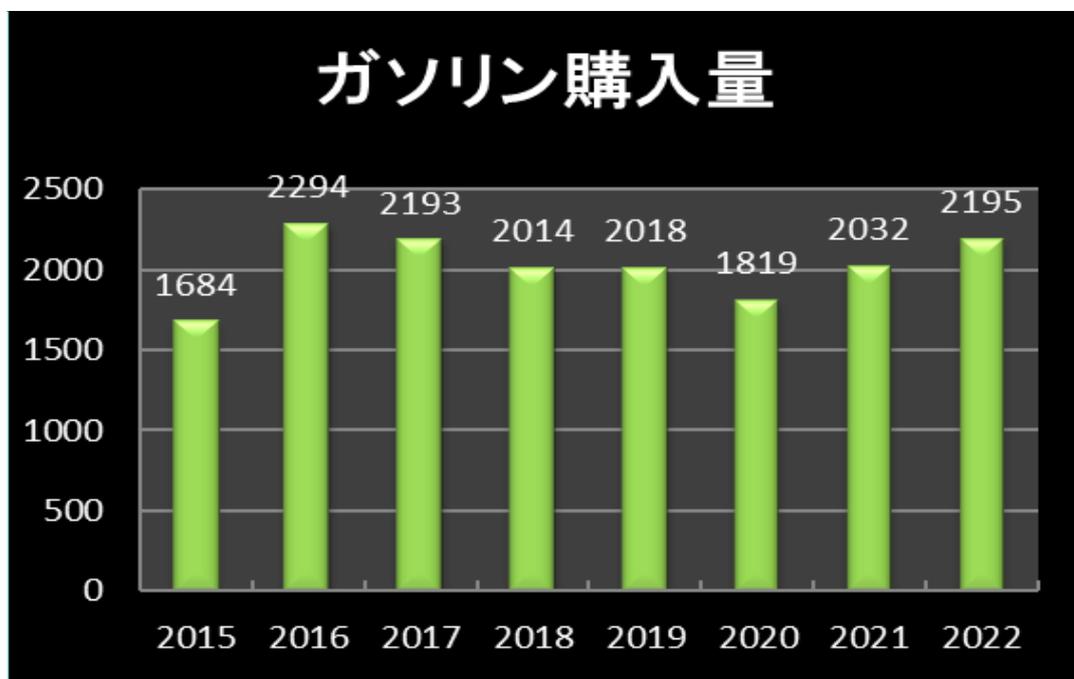


3) ガソリン（社用車・送迎マイクロバス）・LPG 使用量の推移

2022年度のガソリンの使用量は、2,195Lでした。2021年度（2,032L）に比較して163L増加しました。

ガソリン使用量

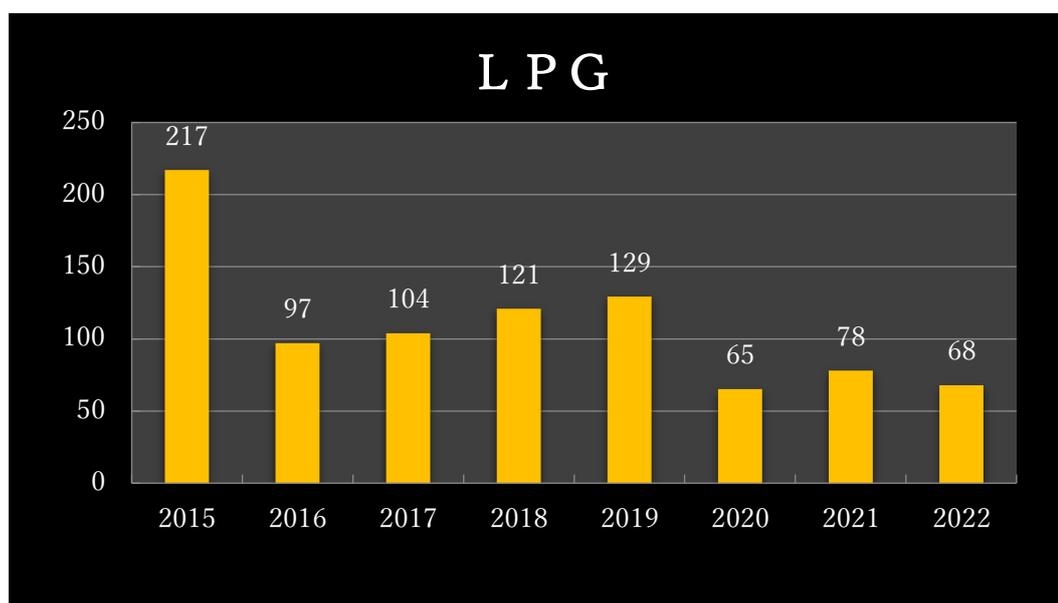
単位：ガソリン L（過去8年間分の推移）



LPG使用量

LPGについては、2022年度は68m³使用しました。2021年度（78m³）に比較して10m³減少しました。

単位：LPG m³（過去8年間分の推移）



(4) 用水使用量及び公共下水道排水の推移

2022年度の工場（研究所含む）用水使用量は518千m³を使用しました。2021年度（512千m³）に比較して6千m³増加しました。排出に関しましては、排出削減と法規制値を順守した管理を実施して行きたいと考えます。

用水使用量・公共下水道排水量 単位：千m³ （過去8年間分の推移）



(5) 廃棄物発生量の推移

日頃より、産業廃棄物量の削減、再資源化率向上に努めています。2022年度は年間総廃棄物量が156.6t発生し、2021年度（131.3t）から25.3t増加しました。2022年は、新型コロナ感染も落ち着き始め、徐々に生産が増えてきたことで、廃棄物の量も増えたと考えられます。また、再資源化率は目標値としていた90%に対して、93%という結果でした。廃棄物に関しては増加しましたが、再資源化できる廃棄物が多く廃棄されたと考えます。今後も、廃棄物の減量化やリサイクル率向上に向けて活動してまいります。

廃棄物発生量 単位：t 廃棄物再資源化率 単位：% （過去8年間の推移）



廃棄物保管施設



廃棄物施設面積等	64.1M × W4.35M × H3.8M		
2t フォークリフト	1台	1.5t 計量器	1台
150kg 計量器	1台	1.5t チェーンブロック	2台
プレスコンパクター	1台	破砕機 (プラスチック成型用)	1台
破砕機 (ガラス屑用)	1台	1t 保管コンテナ箱	62基
生ゴミ処理機	1台		

(6) 化学物質の管理

PRT法に沿った形で、第一種指定化学物質 年間取扱量1t以上、特定第一種指定化学物質0.5t以上の物質については、取扱量・排出量等を神奈川県に届出ることになっております。弊社での対象物質はnヘキサンだけとなっておりますが、主に使用している化学物質の購入量をまとめております。

主な使用管理対象物質 (前年度との比較)

指定化学物質名		取扱量 (Kg)	
		2021年度	2022年度
第一種	アセトニトリル	257.0	255.0
〃	クロロホルム	4.5	2.3
〃	ホルマリン	797.0	833.0
〃	ホウ酸(ホウ素化合物)	346.4	530.0
〃	nヘキサン	4,630.0	5,090.0
第一種特定	ベンゼン	0.4	1.5

(7) PCB廃棄物の排出と保管状況

高濃度及び低濃度PCB含有物としては、令和元年5月にすべて処理が終了しています。

7 環境会計

集計範囲：わかもと製薬(株)相模大井工場（一部研究所も含む）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日

環境保全コスト

(単位：千円)

コスト分類	主な取り組み内容	投資額	費用額
事業エリア内コスト		26,098	28,938
公害防止コスト	・排水処理施設の維持管理 ・CIP排水中和装置設置	1,328	2,588
地球環境保全コスト	・ボイラの維持管理	21,760	22,080
資源循環コスト	・廃棄物処理委託 ・廃棄物のリサイクルなど	3,010	4,270
上・下流コスト	・容器包装再商品化委託費 ・廃棄製商品の適正処理	1,897	7,910
管理活動コスト	・環境マネジメントシステム維持・運用 ・排水、大気等の分析調査 ・事業所内の緑地保全	1,749	3,009
研究開発コスト	・動物空調維持管理	8,685	8,685
社会活動コスト	・社会貢献活動 ・環境保全に関する団体等への寄付金	5	6
環境損傷コスト	—	0	0
その他のコスト	—	—	—
合計		38,434	48,548

環境保全効果

▲は増

効果の内容	単位	2021年度	2022年度	環境保全効果
電気使用量	千Kwh	7,798	7,756	42
都市ガス使用量	Km ³	2,342	2,332	10
ガソリン使用量	L	2,032	2,195	▲163
井水使用量	千m ³	512	518	▲6
CO ₂ 排出量	t	9,168	8,420	748
廃棄物排出量	t	131	157	▲26
水質(BOD、COD)	t	15	19	▲4

8 緊急事態への対応

相模大井工場（研究所含む）では緊急事態を想定した防災訓練及び火災予防訓練等を実施しております。また、大規模地震災害後を想定した、工場・研究全体での避難訓練等も計画的に行っております。また、会社全体では大きな災害が起きた場合、従業員の安否確認をする手法として、ANPIC（安否確認システム）を利用して、年に1回から2回程度の会社全体での訓練を行っています。また、大型台風や、ゲリラ豪雨等による天候悪化により、社員が公共交通機関で帰宅できなくなる「帰宅困難者」が発生しないよう、迅速な対策を取るよう心がけています。

● ガス漏れ訓練（自衛訓練）

2022年度は、12月19日に工場内部の特定業務訓練の一環として、地震等による都市ガス漏れが生じたと想定して、当該ガス会社が到着し対応するまでの時間、工場内に本部を立ち上げると同時に、ガス漏れ付近を封鎖する訓練を行いました。

● 避難訓練及び消火器訓練

相模大井工場（研究所を含む）では、地震等による大規模災害の対策として、総括的な防災訓練を11月29日に行いました。新型コロナウイルス感染症対策をとりながら、工場正門付近のロータリーとグラウンドの2箇所を避難場所に設定しました。本年度も自衛消防隊本部員によるテント設営は実施せず、各職場の避難誘導班による指定された避難所までの誘導訓練、避難後の人員確認等、确实かつスピーディーに行動できるかの確認を中心に行っています。また、避難訓練での移動の時は、ヘルメット着用を義務付けております。また、当工場の防火管理者中心に、新入組合員及び中途採用者対象の消火器による初期消火訓練も同じ日に実施し、有事の際の心構え等を教育しています。

《防火管理者による新入社員及び中途採用者の消火器訓練》



●放水訓練

当工場では、自衛消防隊組織が設けてあり、有事の場合この組織中心に対応することとなっています。自衛消防隊の中にポンプ班があり、毎年小田原消防署員をお招きし、工場内にて消火訓練を実施しています。工場内では、建物付近には消火栓は完備していますが、消火栓が届かない地区もあります。その部分を補うために可動式消火ポンプが1台完備してあります。本年度はポンプ班訓練として、ポンプの可動手順の確認、消火ホースのつなぎ方、放水口からの放水訓練等、実践に近い形で実施しました。また、可動式ポンプは、月に一度いつでも使用できるよう状態の点検記録をとり、エンジンの稼働点検も行っています。

《自衛消防隊による可動式消火ポンプ訓練》



●浸水訓練

当工場の西側には二級河川の酒匂川があります。また、工場の数百メートル上流には、酒匂川の本川に支川である音無川の合流地があります。数年前の線状降水帯の大雨により、堤防の決壊寸前までいったことがありました。そこで、建物内に少しでも水の浸水を防ぐための処置として、「ボックスウォール」を使用して設置訓練を行っています。また、吸水性土のう「アクアブロック」や、土のう袋等も多く購入し、いざという時に被害が最小限になるよう日頃から準備しております。

《ボックスウォールと吸水性土のう》



9 社会貢献活動

● 美化活動

ここ数年、新型コロナウイルスの影響で、中止されていた地域の美化活動でしたが、酒匂川統一美化キャンペーンと、大井町クリーンキャンペーンについては、3年ぶりに開催されました。5月に行われた酒匂川統一美化キャンペーンについては、従業員やご家族の方にも参加していた頂き、総勢23名の参加者がありました。また、11月に開催された大井町クリーンキャンペーン2022については、開催日が、祝日で工場稼働日と重なったため、参加ができませんでした。今後も、参加者を増やしつつ積極的に参加していきたいと考えます。

《5月8日の酒匂川統一美化キャンペーン》



● 自動販売機等による募金活動と食品自動販売機

飲料用自動販売機にて売り上げの一部を、非営利団体を通し寄付金として、東日本大震災への義援金や盲導犬協会の募金支援活動に取り組んでいます。また、赤い羽根募金やエコキャップ活動を通じて、社会貢献活動への協力参加も行っています。また、飲料用の自動販売機の1台を、災害時に飲料水が取り出せるようにして、飲料の確保対策も取っています。

福利厚生面では、食堂が廃止され仕出し弁当に変更となりました。仕出し弁当以外の選択の為に、コンビニエンス提携自販機を設置し好評を得ています。

《募金付の自動販売機》

《左側の自動販売機が、コンビニ提携の自動販売機》



《大井町福祉協議会への協力としての赤い羽根募金》



● 献血運動

当工場(研究所を含む)は、年に2回開催しています。2022年度の開催日は1回目が7月14日で8名、2回目が12月19日に8名の協力がありました。今後も継続して献血運動を推進していきたいと考えます。

● 地域社会との交流

例年は地域社会とのコミュニケーションを図るために、自治会等へ工場敷地の利用等提供を行っています。自治会の年間行事で当工場が関わるものとして、夏祭り、どんど焼き、花見会があります。2022年7月に開催する夏祭は、工場敷地が休憩場所として利用されますが、今回は縮小開催となったため工場敷地の利用はありませんでした。2023年1月のどんど焼に関しては実施されましたので、当社で剪定した木々の廃木材を、やぐらの材料として提供いたしました。2023年3月に開催される花見の会にも、工場敷地を提供いたしますが、新型コロナウイルスの影響により中止となりました。

また、2022年9月に今回初めて開催された、自治会主催の美化清掃が行われ、工場敷地の外周の用水路の除草作業にも参加いたしました。

10 おわりに

わかもと製薬相模大井工場の敷地の南側にはグラウンドがあります。外周には桜の木(ソメイヨシノ)が植えられており、春には花卉が散る様が大変きれいだと、工場外周を散歩される方からお声掛けを頂きます。このグラウンドは以前、地域の野球大会で2面使用できるほど大きなグラウンドでしたが、第2点眼製剤棟が建てられた後は、狭くなったこともあり、野球をするスペースがなくなりました。ただ、地域の団体とも交流を深めることは継続したいと考えていたことから、土日祝日には、少年サッカー、女子中学生ソフトボールに無償にて貸出していますし、年に数回ではありますが、平日の昼間に1時間程度に地域の保育園園児の運動の場として提供しています。

また、小田原消防署と大井町そして当工場と提携し、平成28年3月からドクターヘリの離発着場として契約を結んだことから、年間通じて、グラウンドの整備が必要となり、弊社の緑化チームと、少年サッカーチーム(夏場は月に一度)で除草作業をして頂いています。今後も、グラウンドに関しては、必要に応じて貸し出しを考えていきたいと考えています。

本報告書の作成にあたりましては、皆様方からの貴重なご意見・ご感想・ご指導を頂き、作成させていただいています。内容について、さらなる充実を図っていきたく考えております。何かございましたら下記の事務局までお申し出を頂きますようお願い申し上げます。

「環境報告書2023」に関する意見・お問い合わせは
わかもと製薬株式会社 相模大井工場 ISO事務局
〒258-0018 神奈川県足柄上郡大井町金手378
TEL:(0465)83-3311 FAX:(0465)82-0861